

「港南区九条の会」

2016年07月28日

私は「港南区九条の会」にも加わっている。作家の大江健三郎氏、井上ひさし氏など、9名の文化人が2004年に憲法九条を守ろうと呼びかけた。港南区の市民たちが呼びかけに呼応して「港南区九条の会」を作ろうと集まってきた。そして、2006年1月24日、上大岡の「ひまわりの郷」で、発足集会を持った。一橋大学院教授で「九条の会」の事務局長をしている渡辺治氏を招いて「改憲で平和な日本はできるのか“憲法九条の力と可能性”」と題して講演をされた。熱のこもった講演で、集まった300人を超える聴衆に大きな感動を与えた。私は集会後出口で、カンパをお願いしていたところ、ご高齢の女性が「大変良い集会でした。感激しました」と言って、封筒を入れた。後で確認したら、10万円も入っていた。「九条の会」は会費制ではなく、カンパで運営されている。自主的な参加で、出入り自由である。そして、それぞれの「会」は地域に根差した独自の活動を展開し、上からの指令などは全くない。しかし、「会」同志の協力関係は緊密で、6つの「会」が連携して作った「根岸線沿線九条の会」は大きなパワーを発揮し、充実した運動を進めている。互いに自主性を尊重しながら、点が線につながり、線が面に広がるのが望まれる。

「港南区九条の会」は発足以来、シンポジウム、学習会などを開いてきた。池住義憲氏を招いて「名古屋高裁」で、イラクへの自衛隊派遣は憲法違反とする判決を勝ち取った裁判の講演会も印象的であった。メンバーには日本ジャーナリスト会議の役員、「神奈川新聞」の元記者、共産党の活動家などがいて、それぞれの思想と情報を持っており、学ぶことが多い。毎月、第二月曜日に例会を持ち、意見交換と「会」の運動について語り合ってきた。「九条の会」の集会は学者やジャーナリストの講演を中心に、楽しい音楽を聴く形式が多い。メンバーの一人が音楽家の池辺晋一郎氏と親しく、講演を依頼できると聞いた。私は音楽を通して九条を考えることに新鮮味があると思った。議論の末、10周年の記念集会を、池辺氏を迎えて行うことにした。2016年4月3日、港南公会堂で開催し、400人近い人々が集まり、成功裏に終わった。集会で、演歌を聞いたのは初めてではないか。

集会後、メンバーで話し合った。「会」はそれぞれの地域で活動をしている、大きな集会を企画した場合、「根岸線沿線九条の会」が実働しているので、任せることができる。「港南区九条の会」は役目が終わったのではないかとということで、休会することにした。休むのであって、止めるのではない。事務局を置いて情報を交換し、他の「会」との連携を深め、必要ならば、活動を再開することに決めた。私は「港南台九条の会」と「根岸線沿線九条の会」の二つになり、少しばかり楽になるだろう。

主イエスは「山上の説教」で「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」と言われた。神は主イエスの十字架と復活において罪の赦し、神に「よし」と是認され、「共に生きよ」という福音をお示しくださった。神が是認した命を殺し殺される戦争で奪い合うことは十字架を無意味とし、福音に反する。平和を実現する人は、神の子として祝福に与る。また、モーセの十戒の第一戒は「あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない」である。神のみを神とする時、地にある人間の命に大小、貴賤はなく、皆共に等しく生きる者とされる。平和を求め続けることはキリスト者の福音の証である。「九条の会」は組織や政党の運動ではなく、あくまで一市民として関わっていく。力を誇示する政治は勇ましく見えるが、力では平和は作れない。命の尊厳を守ろうとする市民運動が平和を作り上げていくと信じている。